

[成果情報名] 「オキナワ」を台木に使用したモモ「日川白鳳」の樹体および果実特性

[要約] 「オキナワ」台の「日川白鳳」の樹勢は共台よりやや弱く、半わい性である。果実重および果実品質は共台とほぼ同等である。

[キーワード] モモ、台木、オキナワ、日川白鳳

[担当] 長崎果樹試・生産技術科

[連絡先] 電話0957-55-8740、電子メールs26700@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 指導

---

### [背景・ねらい]

モモの台木「オキナワ」は自発休眠覚醒のための低温遭遇時間が共台より短く、早期加温栽培には有利であるが、樹勢への影響や果実特性は不明である。そこでこれらの特性を調査し、実用性を検討した。

### [成果の内容・特徴]

1. 「オキナワ」台の開花期は共台より2日早い。成熟期および成熟日数は共台とほぼ同じである（表1）。
2. 「オキナワ」台の発育枝長は共台とユスラウメ台の間である。節間長は共台とほぼ同じで葉色は共台よりやや濃い。発育枝の長さは、「オキナワ」台は共台より短い枝の割合がやや高い（表2、図1）。
3. 「オキナワ」台の果実重は共台とほぼ同じでユスラウメ台より大きい。果形指数、着色歩合、糖度およびpHは台木による差はない（表3）。

### [成果の活用面・留意点]

1. 無加温ハウスにおける成果である。

[具体的データ]

表1 台木の種類と日川白鳳の生育相 (2002～2007年平均)

台木	展葉期 (月日)	開花期(月日)			成熟期 (月日)	成熟日数 <sup>2</sup> ±標準誤差 (日)
		始	盛±標準誤差	終		
オキナワ台	3.20	3.13	3.18±3.2	3.28	6.11	85±3.0
ユスラウメ台	3.21	3.13	3.18±2.4	3.27	6.9	83±2.1
共 台	3.21	3.15	3.20±2.7	3.31	6.12	84±4.7

<sup>2</sup> 開花盛期から収穫までの日数

表2 台木の種類と日川白鳳の新梢形態 (2002～2007年平均)

台木	発育枝長 <sup>2</sup> (cm)	節間長 <sup>2</sup> (mm)	葉色 <sup>3</sup> (SPAD値)
オキナワ台	19.8	18.6	44.1
ユスラウメ台	9.2	12.8	44.2
共 台	27.3	18.5	42.7

<sup>2</sup> 側枝先端の発育枝を収穫期調査

<sup>3</sup> 発育枝基部から3～5葉を収穫期調査

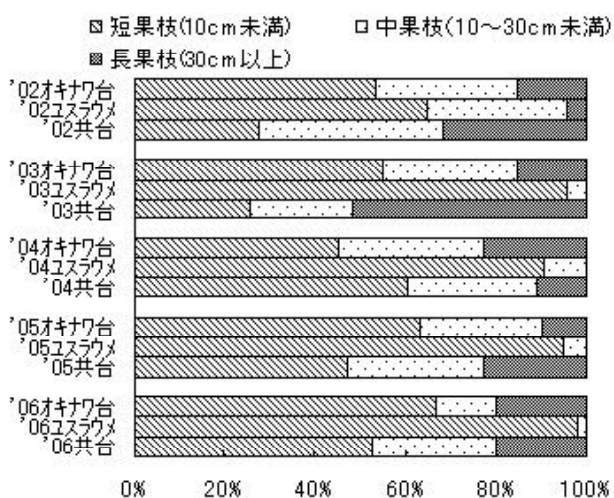


図1 台木の種類と発育枝の長さ別割合

表3 台木の種類と日川白鳳の果実品質 (2002～2007年平均)

台木	果実重 (g)	果形指数 <sup>2</sup>	着色歩合	糖度 (Brix)	pH
オキナワ台	151.6a <sup>3</sup>	100.6	5.6	11.3a	4.85
ユスラウメ台	102.1b	100.8	7.2	11.8a	4.56
共 台	176.1a	101.4	6.7	10.8a	4.69

<sup>2</sup> 果実側径/縦径×100

<sup>3</sup> 異なる文字間にTukeyの多重検定で5%レベルで有意差有り。

[その他]

研究課題名：新整枝法による落葉果樹管理作業の軽労化と多収技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2002～2007年度

研究担当者：田中 実、林田誠剛、松浦 正